

2007年3月期決算説明会



2007年 5月

株式会社DNAチップ研究所

DNA Chip Research Inc.

<http://www.dna-chip.co.jp>

・前期決算概要及び今期計画	3	・中期ビジョン	19
1. 決算サマリー		1. DNAチップビジネスを取り巻く環境	
2. 業績推移(5年間)		2. RNA解析にユーザが求めるサービス	
3. 事業区分別業績		3. DNAチップ研究所の姿勢(RNA解析)	
4. 受託サービスの詳細(実績)		4. 受託解析とトータルサービスへのシフト	
5. 前期決算ハイライト		5. 社内体制の整備	
6. 前期業績不振の主要因		6. 個人化医療に向かう社会 生活習慣病(糖尿病)を例にとって	
7. 今期計画		7. リウマチの診断	
8. 今期計画の詳細		8. 癌	
・今期業績向上にむけて	12	9. DNAチップ研究所の対応	
1. 今期業績改善プラン		10. まとめ	
2. 売上高の確保			
3. 収益構造の改革		・クリニック事業の展開について…	30
4. アジレント受託解析サービスの強化			
5. ConPathチップによる受託解析サービス			
6. 受託サービスの詳細(計画)			



・ 前期決算概要及び今期計画

- 1 . 決算サマリー

項 目	2006年3月期	2007年3月期			対前年度比
		(予想値) ^(注2)	(実績)	比	
売上高(千円)	759,877	1,000,000	787,120	79%	104%
経常利益(千円)	262,688	299,000	342,306	-	-
特別損失(千円)	0	0	67,500	-	-
当期純利益(千円)	272,383	300,000	409,806	-	-
研究開発投資(千円)	150,205	-	223,810	-	149%
総資産(千円)	1,353,215	-	1,959,976	-	145%
純資産(千円)	1,086,992	-	1,675,972	-	154%
発行済株式の総数(株)	27,200	-	33,897	-	125%
一株あたり純資産額(円) ^(注3)	39,962.97	-	49,443.10		124%
一株あたり当期純利益(円) ^(注4)	10,014.10		11,359.33		-
経常利益率(%)	34.6		43.5		
自己資本比率(%) ^(注1)	80.3		86.0		

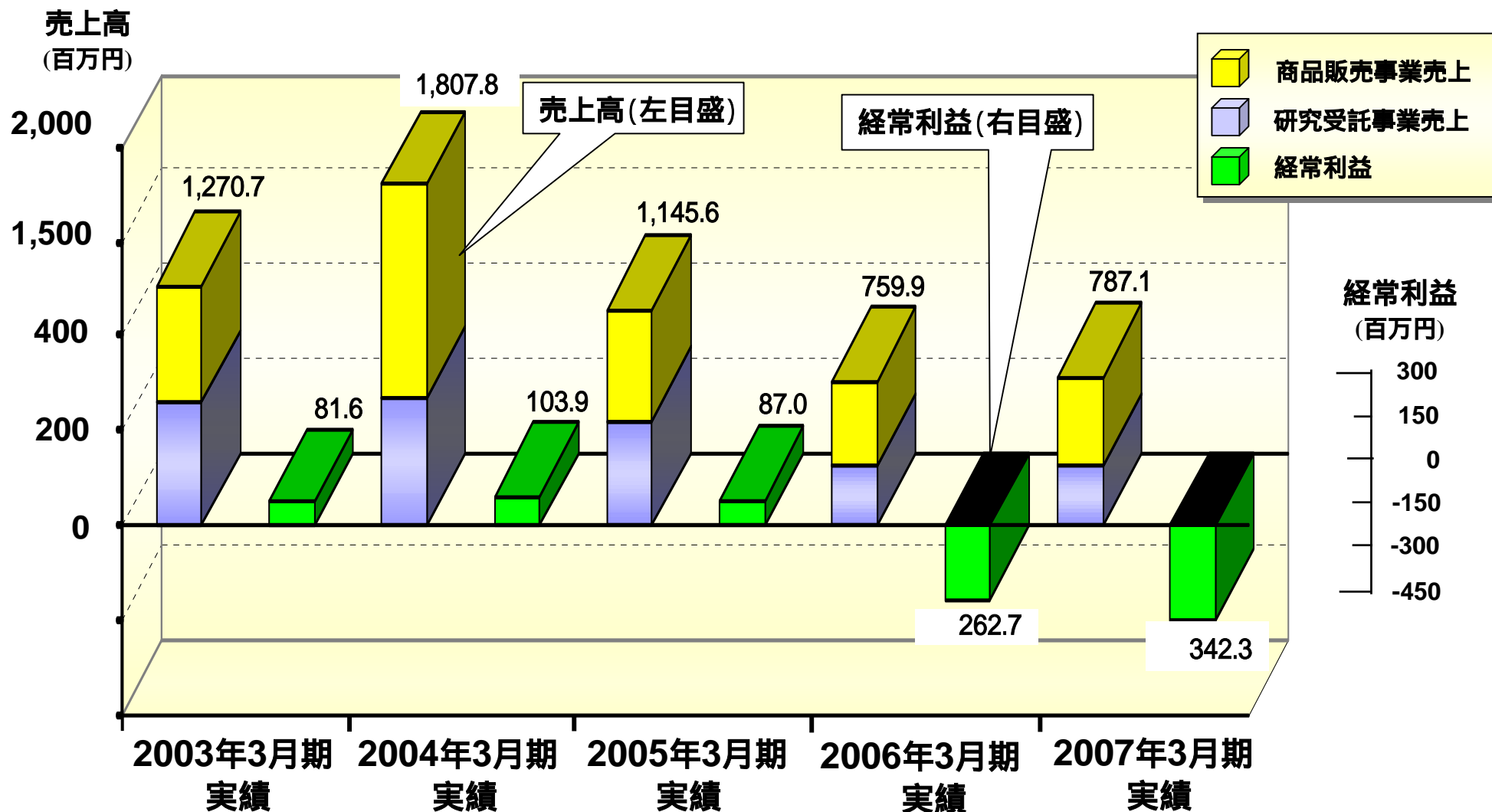
(注1) 自己資本比率も高く、財務状況的に問題はない

(注2) 予想値は、2006年10月23日に公表した2007年3月期業績予想修正数値である。

(注3) 一株あたり純資産額：期末純資産 / 期末発行済株式数

(注4) 一株あたり当期純利益：期純利益 / 期中平均株式数

- 2 . 業績推移 (5 年間)



- 3 . 事業区分別業績



株式会社DNAチップ研究所

(金額単位:百万円)

項 目		2006年3月期		2007年3月期		対前年比 (%)	説明
		売上高	比率	売上高	比率		
研究受託 事業	日立ソフト	84.0	11%	36.0	4%	43%	【説明1】
	公募関連	43.4	6%	94.8	12%	218%	
	一般(受託解析)	182.9	24%	179.4	23%	98%	
	計	310.3	41%	310.2	39%	100%	
商品販売 事業	汎用チップ	181.7	24%	113.8	15%	63%	【説明2】
	開発機器	149.3	20%	127.3	16%	85%	【説明3】
	一般機器	118.6	16%	235.8	30%	199%	
	計	449.6	59%	476.9	61%	106%	
合 計		759.9	100%	787.1	100%	104%	

【説明1】

2006年3月期からの業務分担の明確化により、日立ソフトからの研究受託費が対前年度比43%(36百万円)と減少。一方、受託解析は顧客のチップ使用の多様化に伴いAceGeneによる受託解析は減少したが、11月から開始したアジレントマイクロアレイによる受託解析の提案活動を積極的に進めた結果、大手製薬会社から大口の受託を受注。また、公募関連の受注が増加し、その結果研究受託事業は対前年度比100%(310百万円)となった。

【説明2】

チップ全体の市場があまり拡大していない状況で、顧客のチップ使用法が多様化し、AceGene(Human Oligo 30K、Mouse Oligo 30K on one chip)等汎用オリゴチップの販売は、対前年度比63%と大幅に減少。

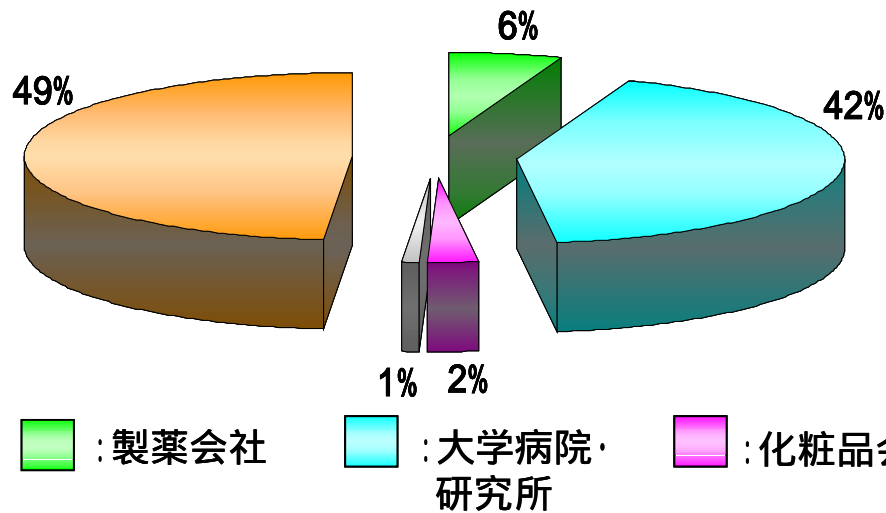
【説明3】

業務分担の明確化により、開発機器等日立ソフトの開発した機器の販売は日立ソフトが担当。新たにSolexaやアジレント等のライフサイエンス機器の代理店として開発機器の売上減少をカバー。

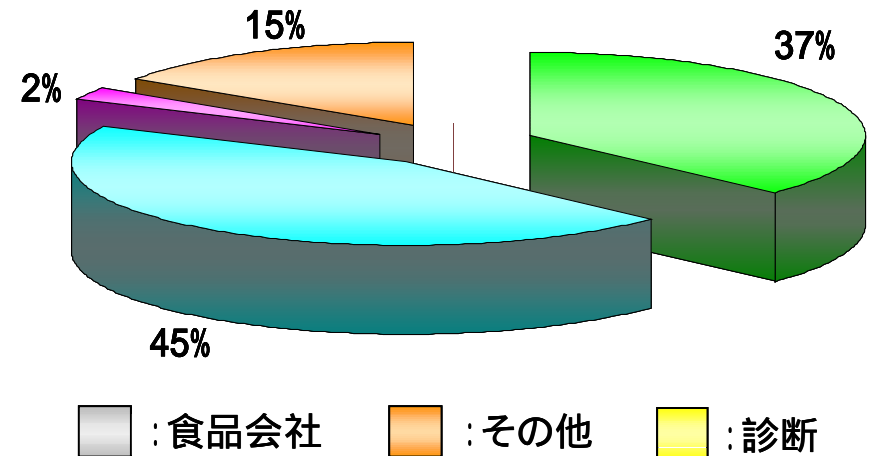
- 4 . 受託サービスの詳細 (実績)

2005年度実績(310百万円)

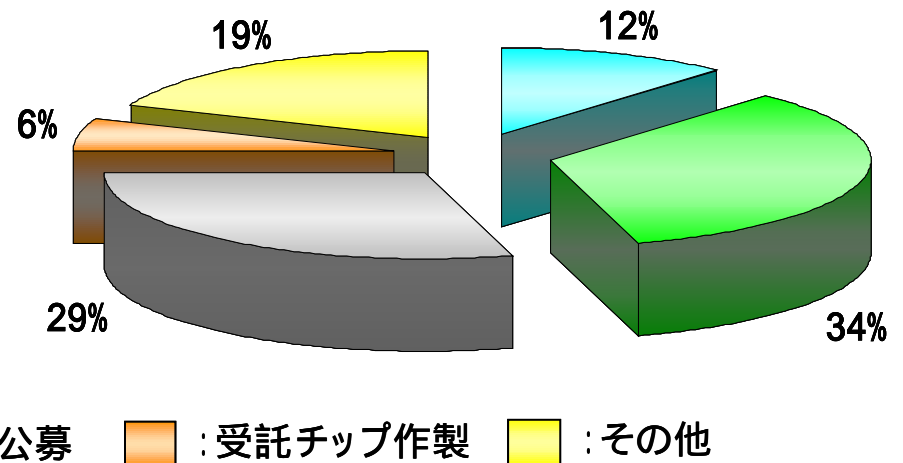
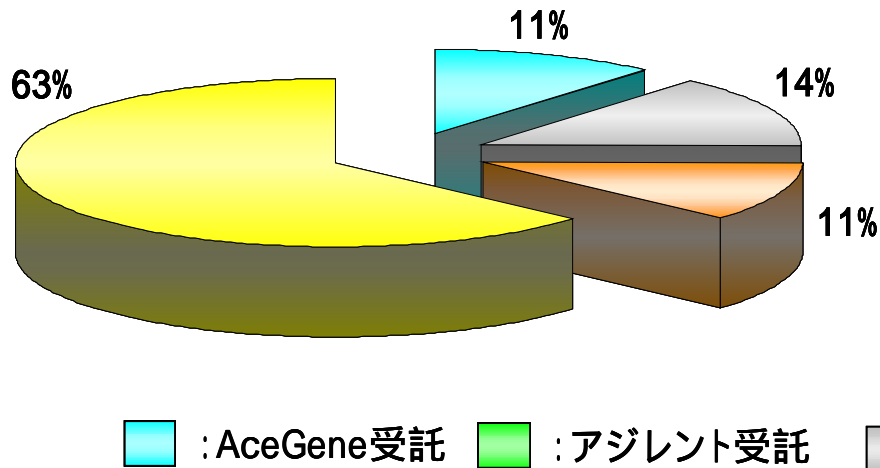
【顧客区分別売上比較】



2006年度実績(310百万円)



【チップ区分別売上比率】



2006年度はアジレント受託の開始に伴い、アジレントのマイクロアレイを使用した製薬会社からの受託解析が増加。また、科学技術振興機構(JST)、NEDO等の公募採択による売上が増加。

- 5 . 決算ハイライト

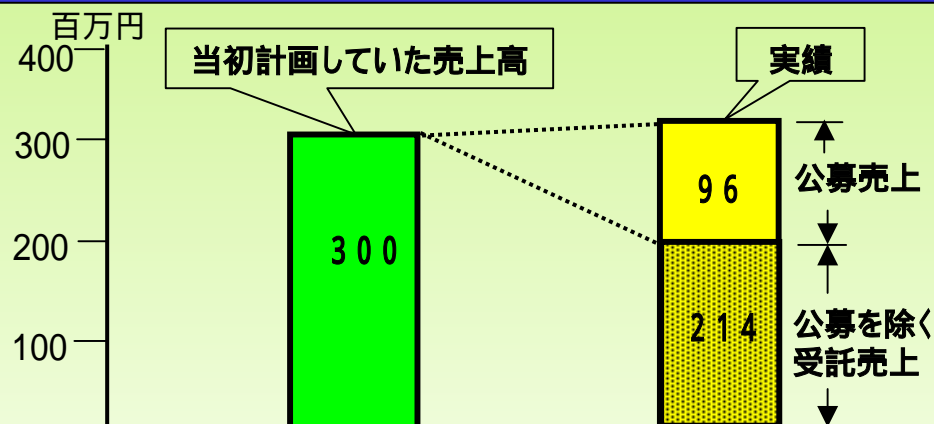


区分	対予想 値比	内訳	対予想 値比	説明
売上高	79%	研究受託 / 受託解析サービス	103%	(1) DNAチップ市場全体の伸びが鈍化している上に、顧客ニーズが多様化し従来の製品メニューだけでは市場ニーズに応えられず苦戦を強いられた。 (2) アジレントとの連携の成果として、市場ニーズに沿ったチップの供給や受託解析サービスが可能になり、受託解析サービスについては徐々に立ち上がり始めた。
		汎用チップ	83%	(1) 顧客のチップの利用方法が多様化し網羅的チップからバイオマーカーの探索を目的とした目的別チップや抗体チップ等へ広がっている。
		機器 / ソフトウェア	65%	(1) イルミナの高性能シーケンサーであるSolexaやアジレント製品の販売開始が、第4四半期以降と出遅れた。
経常利益		342百万円	(1) 売上高の未達により、利益額が減少した。 (2) RNAチェック技術の開発等、研究開発投資が大幅に増加(対前年度比147%)し、利益を圧迫した。	

- 6 . 前期業績不振の主要因

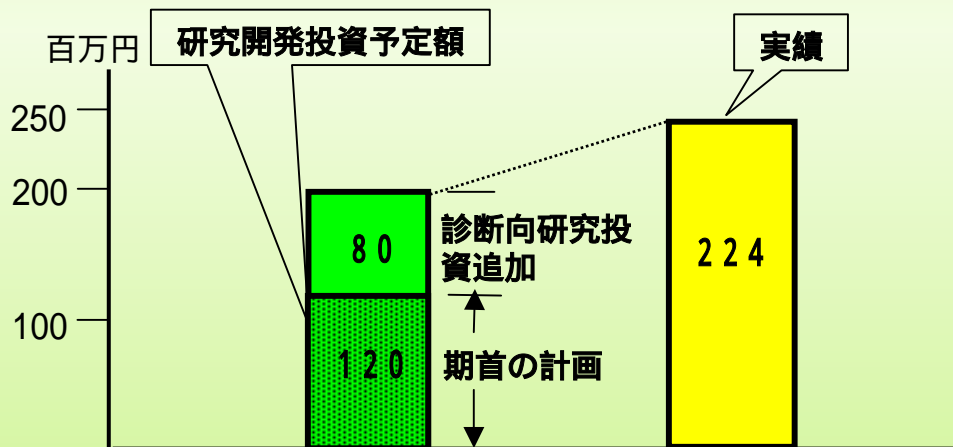
- 1 . 受託解析サービスの立上がり遅れ
網羅的からバイオマーカーの探索等顧客のチップ利用方法の多様化への対応遅れ
アジレントとの戦略的提携が第4四半期にしか貢献できず
- 2 . 研究開発投資の増加
健診ビジネス向けRNAチェック技術開発のための研究開発投資の増加

受託解析サービスの立上がり遅れ



網羅的からバイオマーカーの探索等顧客のチップ利用方法の多様化への対応遅れアジレントとの戦略的提携が第4四半期にしか貢献できず
受託解析サービスの未達を公募売上でカバー

研究開発投資の増加



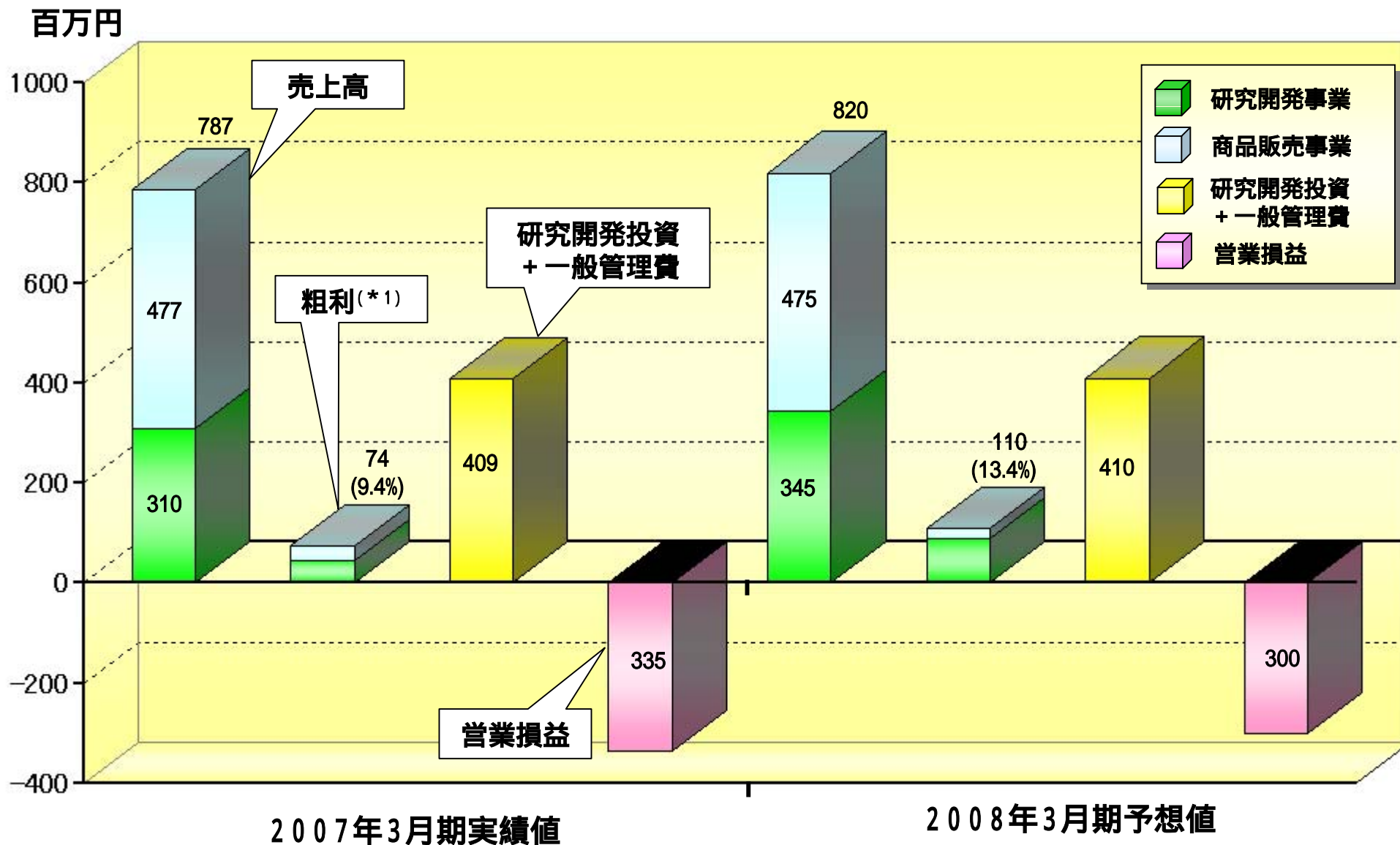
健診ビジネス向けRNAチェック技術開発のための研究開発投資の増加

- 7 . 今期計画

項 目	2007年3月期 実績	2008年3月期 予想	対前年度比 (%)
売上高(千円)	787,120	820,000	104
営業利益(千円)	335,270	300,000	-
営業利益率(%)	-	-	-
経常利益(千円)	342,306	298,000	-
経常利益率(%)	-	-	-
当期純利益(千円)	409,806	300,000	-
研究開発費(千円)	223,810	200,000	89
設備投資(千円)	16,652	30,000	180

- 売上高** : 研究受託事業 アジレントのマイクロアレイを核にした製薬会社、化粧品会社、食品会社からの大口受託解析サービスの受注確保とConPathチップによる臨床研究者及び大学、研究所からの受託解析サービス確保。下期からはRNAチェックによる健診ビジネスを一部開始 (310百万円 358百万円)
(対前年度比較)
- 商品販売事業 理研、産総研等の大手研究機関からのSolexa受注及びアジレントライフサイエンス機器販売の拡大。日立ソフトとの共同開発による開発機器販売は減少 (477百万円 462百万円)
- 営業利益** : 研究受託、受託解析サービス比率の増加による利益増加(比率:39% 44%)。研究投資額は前年度並み
- 研究開発費** : 【2008年3月期主な研究開発投資内容】
- (1) 血液による生活習慣病、免疫関連疾患診断法の研究(埼玉医科大学、金沢大学、大阪大学等)
RNAチェックによるリウマチ薬剤効果診断、糖尿病診断技術の開発。2008年3月期に一部事業化を開始
 - (2) 大阪大学とのがん診断チップ試行
大学内病院及びコンソーシアム等での評価と改良継続
 - (3) ConPathチップ等目的別、パスウェイ解析用チップの開発(受託解析サービス向チップと解析ソフトウェアの開発)
産業技術総合研究所、住友ベークライト、日本ガイシ等との共同開発

- 8 . 今期計画の詳細



(注*1): 売上原価から製品開発先行投資及び自社研究費等の研究開発投資分を除いた分(研究受託事業+商品販売事業の売上原価)の売上総利益

・ 今期業績向上に向けて

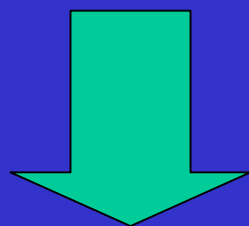
「業績改善」推進プラン

売上高の確保

収益構造の改革

アジレント受託解析サービスの強化

ConPathチップによる受託解析サービス



業績改善

1 . 受託サービス受注への集中と拡大

受託解析サービスの強化

- ・アジレントCSP (Certified Service Provider) 認定の優位性を活用した製薬会社、化粧品会社、食品会社等民間会社からの受託の確保
- ・ConPath™チップを活用した臨床研究分野向け受託解析サービスの強化
- ・住友ベークライト、日本ガイシと連携した顧客の研究テーマに合わせた高感度カスタム・チップ受注の拡大
- ・受託解析の自動化による作業効率向上と、精度の向上

RNAチェック技術開発による健診ビジネスの開始

- ・リウマチにおける薬剤効果診断ビジネスの試行と一部事業化を開始
- ・解析結果データに対するセキュリティ管理・品質保証体制の整備

2 . ライフサイエンス関連機器販売の強化

市場での評価の高い機器、海外製新製品等の販売チャンネル確保

- ・イルミナの高性能シーケンサであるSolexaの販売強化
- ・アジレントのライフサイエンス機器の販売強化

1 . 顧客のニーズに応える製品

高付加価値チップ、教育用チップの開発と作製

- ・目的別・パスウェイ解析用チップの商品化と種類拡大(H19/5末開始)
- ・バイオ関連教育向け教育チップの開発と教育現場での試行開始(H19/6試行)

顧客の研究テーマに合わせたカスタム・チップ作製の充実

- ・少量のプローブを搭載したカスタム・チップを大量に作製する場合への対応
GENESHOT方式(日本ガイシ、住友ベークライトとの連携)
- ・多数のプローブを搭載したカスタム・チップを少量作製する場合への対応
オンサイト合成方式(アジレントとの連携)

2 . 材料・解析業務のコスト低減

チップ作製素材のコスト低減

- ・プラスチック基板等高性能で低価格基板の採用
- ・産総研との共同開発による新規高品質オリゴの採用

解析工程の自動化

- ・自動化システムの導入による解析作業コストの低減

提携状況

2006年11月の戦略的提携 (Authorized Distribution Agreement) に引き続いて、2007年4月にCSP (Certified Service Provider) の契約を締結

CSPを取得したプロバイダー(日本では弊社だけ)には、次のような義務・権利がある。
「定期的にアジレントより受託解析に関する新技術、既存技術の教育を受け、合格するまで再教育される」

したがって、顧客には次のようなメリットがある。

解析結果が信頼性のあるデータである。

アジレントチップの性能を十二分に引き出せる。

例えば、再現性よいデータ、高感度のデータを出せる。

データに不具合があるとき、アジレントと連携をとり、素早い対応がとれる。

新解析技術にすぐ対応できる。

アジレントマイクロアレイを用いた受託解析サービスに対する当社の方針

アジレントのマイクロアレイを用いた受託解析サービスは、次の顧客を重点的に対象とする。

- (1) 製薬会社、化粧品会社、食品会社等の民間企業の研究者
- (2) 大学、研究所の研究者のうち、多様なマイクロアレイの解析を望む研究者
- (3) 多種の遺伝子を搭載した少量のマイクロアレイの作成と解析を同時に必要とする研究者



ConPathチップ

約100種類のヒトの遺伝子ネットワークに関わる約4,000種類の主要な遺伝子を抽出したパスウェイ^(注1)解析型DNAチップ

【特徴】

- (1) 各種生命現象に関わる重要な遺伝子を選択
- (2) 各遺伝子を高い特異性で検出する高純度なDNAプローブを搭載
- (3) 一枚のチップで多検体サンプルの同時解析が可能
- (4) 従来約1/20分量のRNA量(50ng)で検出が可能

(注1)パスウェイ

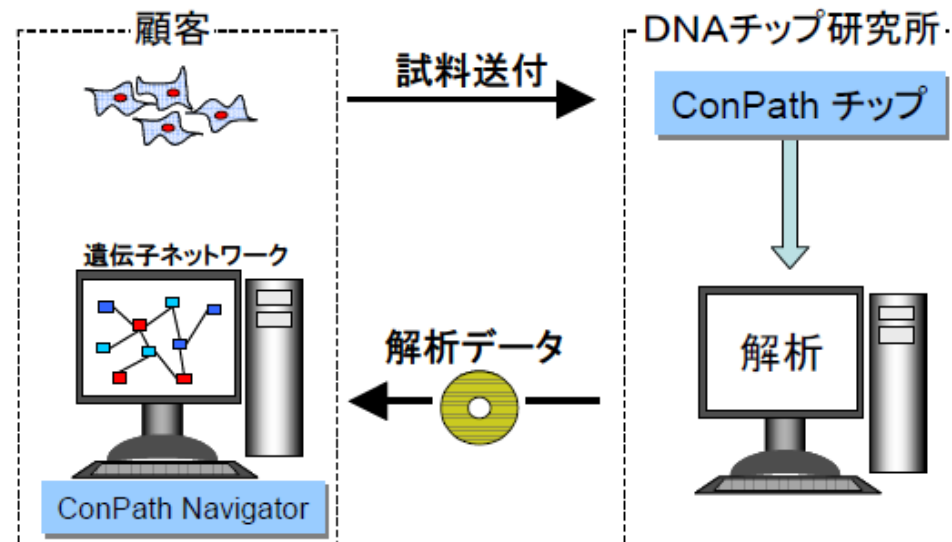
一般的にはパスウェイは生物現象をテーマごとに分類したグループであり、パスウェイを構成する遺伝子間の制御、相互作用などの関係を視覚的に表示している。

ConPath Navigator

解析ツールConPath Navigatorは、ConPathチップから得られたデータを取り込み、そのデータを各パスウェイの遺伝子ネットワーク上に反映させることができる

これらConPathチップとConPath Navigatorを併用することにより、通常であれば数週間から数ヶ月間必要なデータ処理、パスウェイソフトの習得及び情報検索等の作業時間を大幅に短縮させることができる。

解析に時間をかけられない**臨床研究分野の研究者**、さらに**これまでDNAチップを利用しなかった新たな顧客**が対象

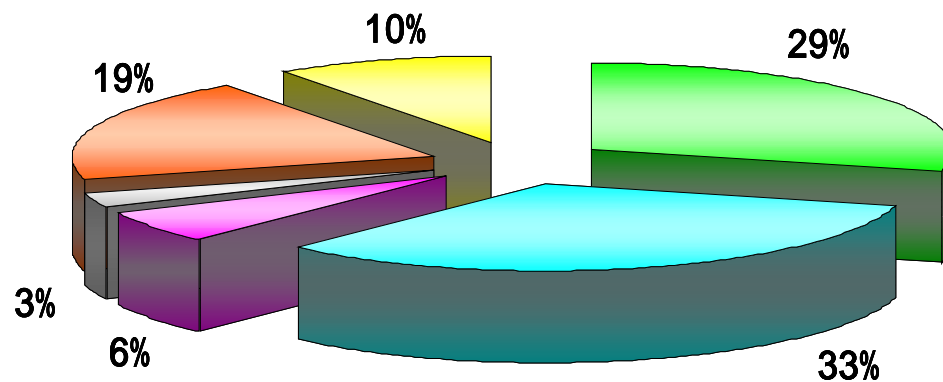
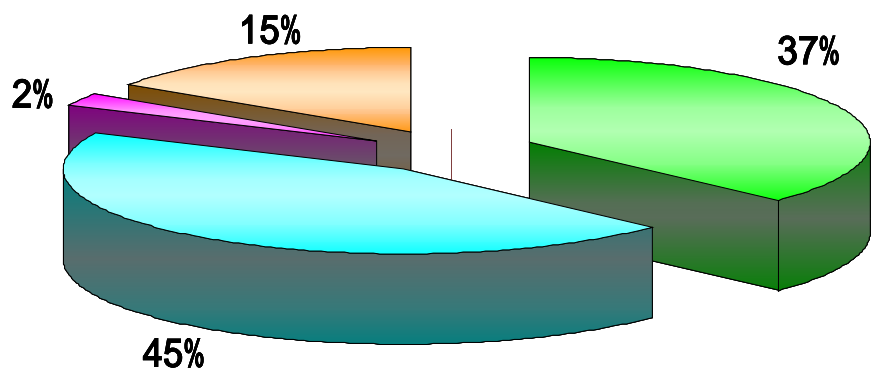


- 6 . 受託サービスの詳細(計画)

2006年度実績(310百万円)

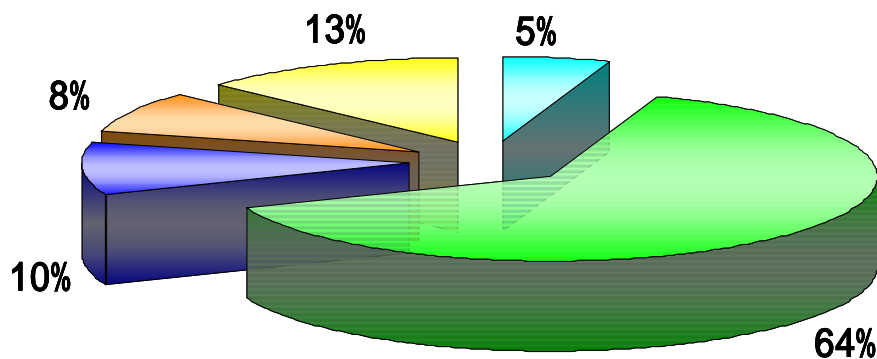
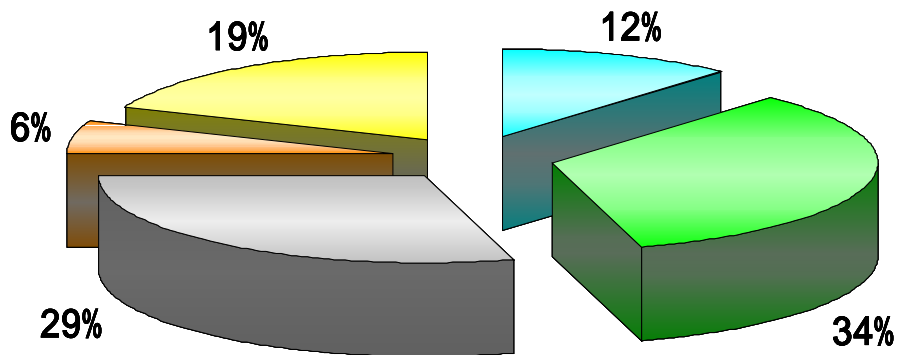
2007年度計画(358百万円)

【顧客区分別売上比較】



■ : 製薬会社
 ■ : 大学病院・研究所
 ■ : 化粧品会社
 ■ : 食品会社
 ■ : その他
 ■ : 診断

【チップ区分別売上比率】



■ : AceGene受託
 ■ : アジレント受託
 ■ : 診断
 ■ : 公募
 ■ : 受託チップ作製
 ■ : その他

2007年度はアジレントマイクロアレイによる受託解析サービスを中心に、製薬会社、化粧品会社、食品会社からの受託を増やしていく。ConPathチップの受託は大学病院、研究所を中心に進める。

・中期ビジョン

- 1 . DNAチップビジネス を取り巻く環境

- 1 . 個人化医療時代に向けてDNA検査ビジネスが立ち上がりつつある(但し、当初予想されたほど急速ではない)
- 2 . それに比べるとRNA解析は研究開発関連がほとんどである
- 3 . しかし、乳がんのRNA検査による予後予測がFDAにより認可され、流れができつつある。国内でこれに対応するアクティビティを持つのは恐らくDNAチップ研究所だけだろう
- 4 . 技術開発型の国内チップメーカーは殆ど撤退した
- 5 . DNAチップ研究所は当面競合のないRNA解析分野(研究用ならびに診断用:RNAチェック)を主たる活動の場とする

- 2 . RNA解析にユーザが 求めるサービス



株式会社DNAチップ研究所

- 1 . 汎用チップ:ユーザの増加は続いているが研究開発の分野では大幅な伸びは止まりかけている
- 2 . 代わりにオンデマンドによる目的別チップ(= 小規模多品種解析) の需要増が見込まれる
- 3 . 「自分でする」よりも「安ければ全部任せる」方向にシフト(DNA シークエンシングからのレッスン)
- 4 . データ解析と知識化を含めたトータルサービスへの要望が高まりつつある

- 3 . DNAチップ研究所の姿勢 (RNA解析)



株式会社DNAチップ研究所

- 1 . 高度技術開発を続けるグループとして日本の研究コミュニティに貢献する
- 2 . ユーザの要望シフトに対応して受託解析とトータルサービスに重点をシフトする
- 3 . 個人化医療に向かう社会に対応した研究開発を進め、技術と共にコンテンツ開発に特色を持つ企業としてビジネス展開を図る

- 4 受託解析と

トータルサービスへのシフト



株式会社DNAチップ研究所

1. 新規ユーザにも経験豊富なユーザにも低コストでトータルな受託解析サービスを提供するシステム
2. 企業向け: 高精度のほか秘文活用による守秘性、品質管理
3. アジレントとの契約によるフレキシブルで安定なデータ生産
4. 特にバイオ・インフォマティクスの充実により、データの解析サービスを充実。データ・マイニングにも協力



- 1 . マーケティング・営業部門、解析部門の間の動的協力体制
- 2 . 研究開発部門の充実と体制の整備
- 3 . 研究開発の成果をより早く事業に結びつける努力
- 4 . 受託解析部門の整備と能力向上 (特にアジレントサービスとトータルサービス)

- 6 . 個人化医療に向かう社会 生活習慣病(糖尿病)を例にとって



株式会社DNAチップ研究所

予備軍

健診 = マーカー

予備軍を見つけ生活指導する
遺伝子変異による素因を調べる(SNP等)
生活習慣のモニタリング
(肥満、運動不足、ストレス、高齢化等)

糖尿病患者数は740万人

これらマーカーは
当面DNAチップ
により収集

軽度患者

症状の診断(分類) = マーカー

良い薬 = 薬の効果をモニター
効果判定をしながら治療と生活指導

患者

予後予測 = マーカー

- 7 リウマチの診断



リウマチ患者には高価な投薬が始まっている

しかし、現状は医師のさじ加減に頼っている

血液中の白血球のRNAチェックにより合理的に効果予測ができる

RNAチェックに必要なコンテンツの取得、チップ形態の開発、流通システム等の開発を進めている

がん患者数は約300万人

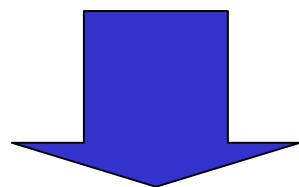
早く見つける = マーカー

良い薬 = 癌のメカニズムを知る
= 制癌剤の感受性

術後の管理 = 予後予測
= モニタリング

上記の = 以降はいずれもDNAチップの出番だが、
DNAチップ研究所は当面RNAチェックに注力する

- 1 . リウマチや癌の診断に使用可能なチップを開発、試用開始
- 2 . 生活習慣病診断に適する遺伝子コンテンツを共同研究により決定し試験的チップを作成



RNAチェックを実用化する方法論を準備中

- 1 . DNAチップ技術とバイオインフォマティクスに関わる開発を継続する。 アジレントとの提携を中心に、これまでに無かったサービス形態を確立する
- 2 . DNAチップを用いて新しい研究を進めようとしている研究者に望ましい形の受託解析サービスを提供する
- 3 . 上記活動に適する社内体制の整備
- 4 . 自社・共同研究で健康診断サービス開始への準備

健康クリニック事業の展開について

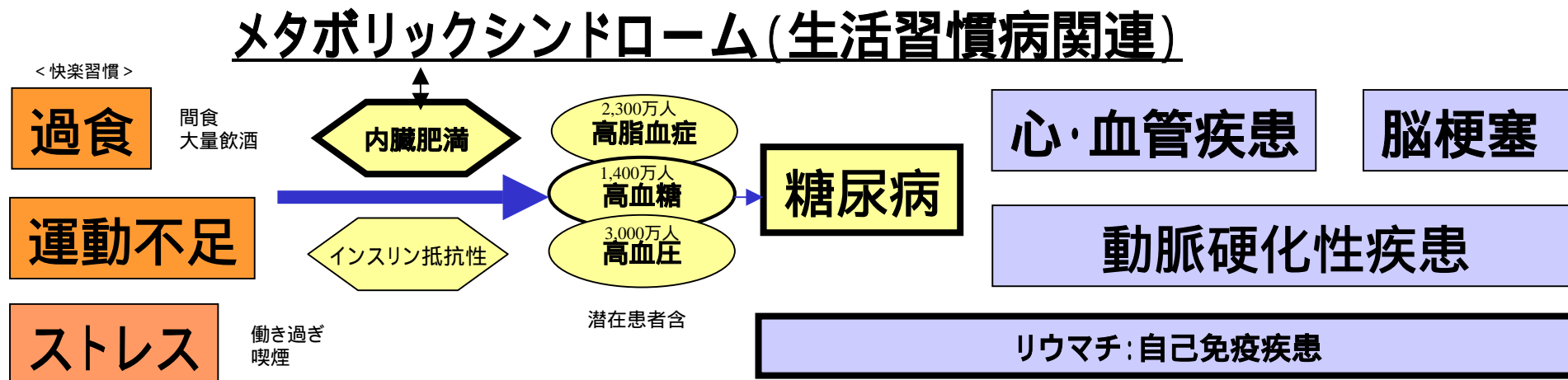
目次

- 1 . 健康クリニック事業分野でのビジネス展開
- 2 . 健康クリニック事業－システム構成(2-1, 2-2)
- 3 . 糖尿病・リウマチの診断チップ・受託サービス市場
- 4 . 健康クリニック事業計画
- 5 . RNAチェック・レポート(事例 ,)
- 6 . (株)DNAチップ研究所の事業戦略(まとめ1, 2)

2007年5月15日
(株)DNAチップ研究所
新規事業推進部

1. 健康クリニック事業分野でのビジネス展開

I. 狙い目市場を「メタボリックシンドローム」に焦点化し診断チップの開発



II. 遺伝子解析技術を応用した「健康クリニック事業」の早期立ち上げ

1. 総合診断サービス・ビジネス:特徴はRNA診断を付加した総合診断サービス

従来検査項目に、遺伝子発現データ、情報を付加し、専門医師のコメントを追記した総合診断レポートの提供など

2. 素材評価(治験)試験支援・ビジネス:特徴はDNA/RNA実験・解析サービス

遺伝子マーカー探索支援・食品評価試験(遺伝子発現データ収集)など

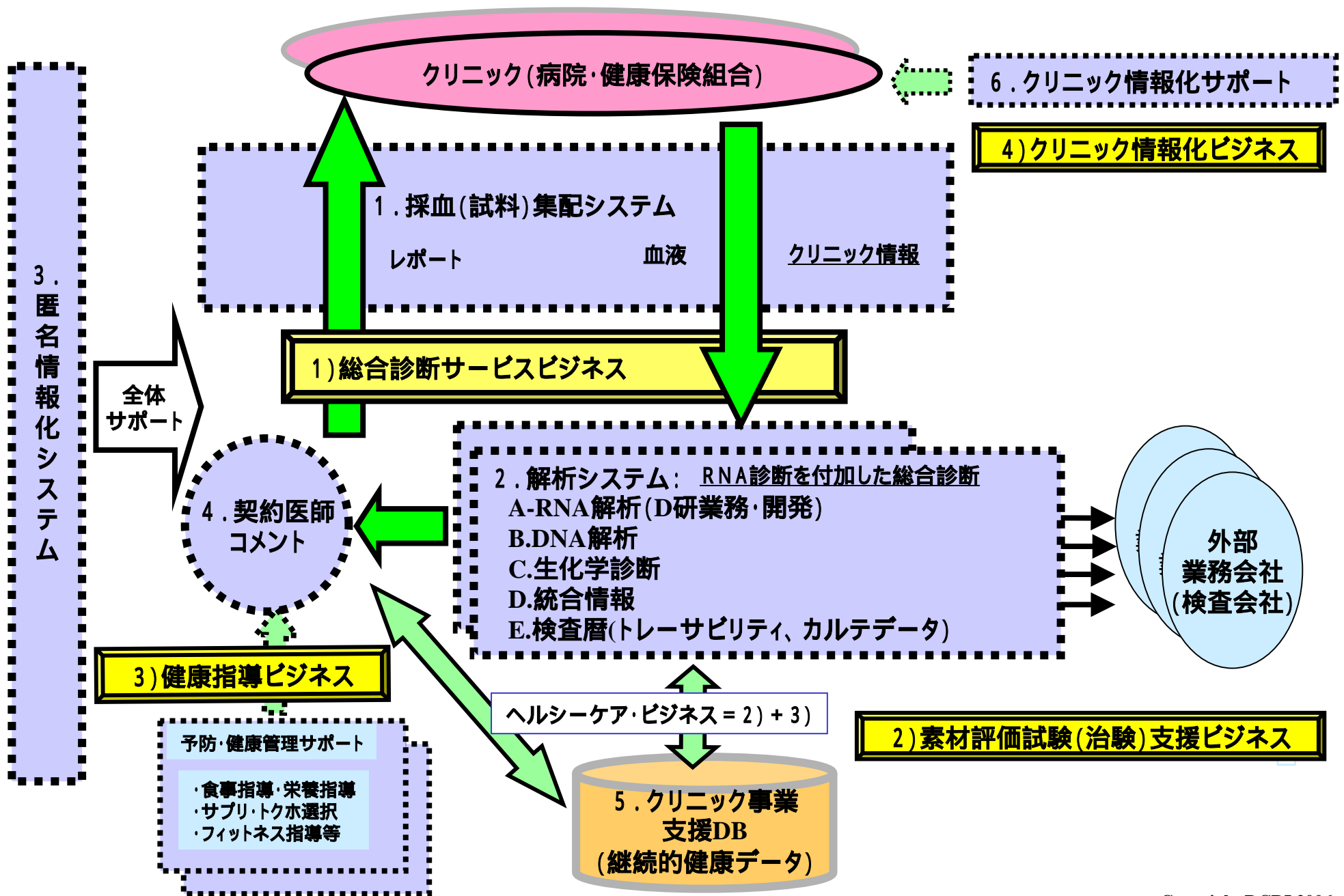
3. 健康指導・ビジネス ヘルシー・ケアビジネス:特徴は生活習慣指導サービス

体質検査(DNA検査)と症状診断(RNA診断)で、発症前段階で、食事指導、運動療法、健康補助食品、サプリメント選択指導など

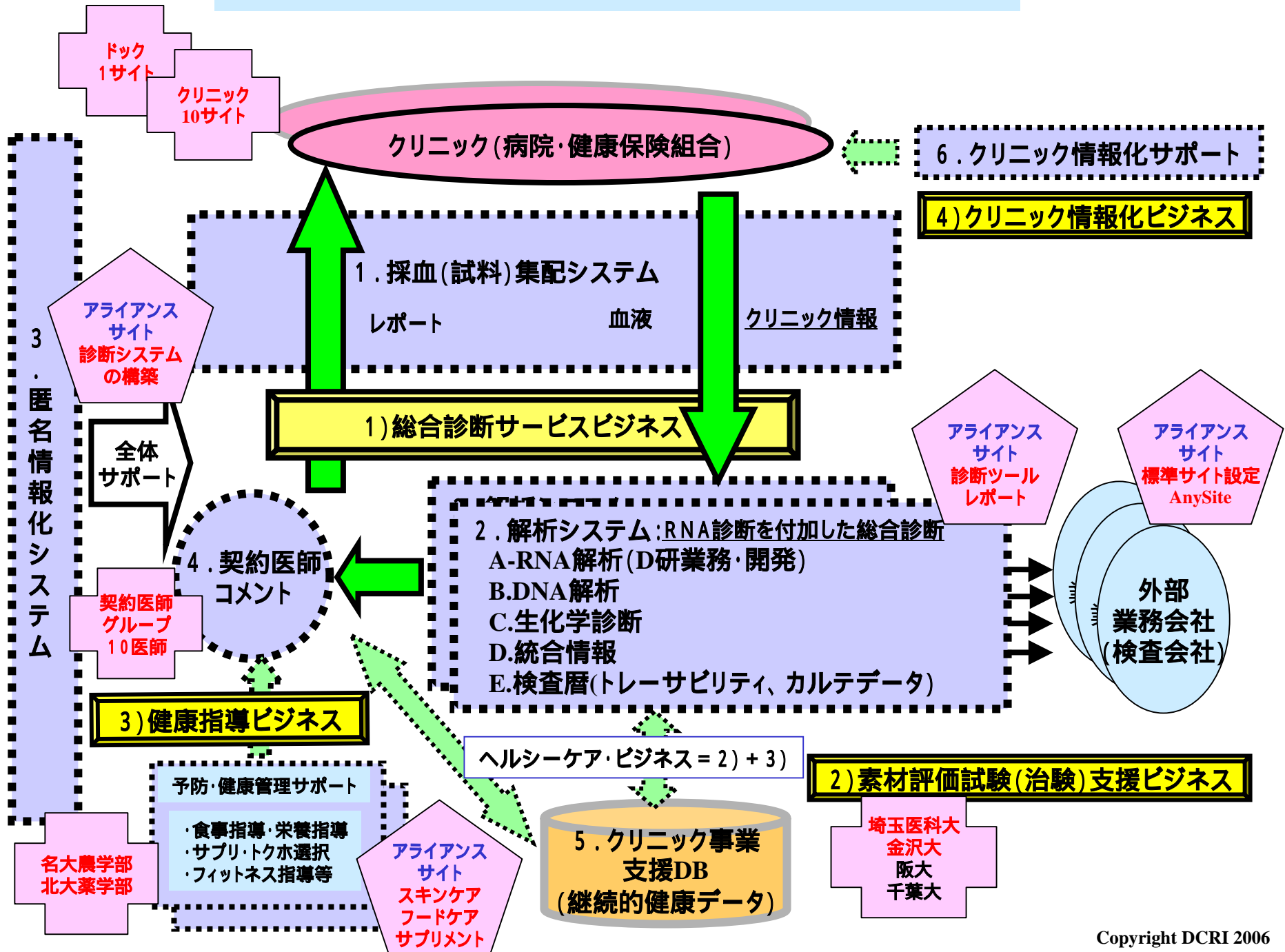
4. クリニック情報化・ビジネス:特徴は遺伝子診断の啓蒙・普及・サイト支援サービス

クリニック用遺伝子診断カタログのカスタム対応作成・コンサルティング、啓蒙・教育用資料の有償作成など

2-1. 健康クリニック事業—システム構成



2-2.健康クリニック事業—システム構成



3. 糖尿病・リウマチの診断チップ・受託サービス市場

H17年度

	糖尿病	リウマチ
予備軍	680万人	1,640万人
患者	690万人	100万人
健康診断:健診チップ使用 (枚数)	1回・年(2枚・1回)	1回・年(2枚・1回)
	1,360万枚	3,280万枚
病気診断:検診チップ使用 (枚数)	3回(4枚・1検査)	3回(5枚・1検査)
	1,380万枚	500万枚
受託サービス潜在件数(年度) (市場試算例:10万円/件)	2,750万件 (2,750億円)	1,940万件 (1,940億円)
<標準価格> 総合診断=10万円 (単品=2万円)	標準	標準

共同研究の取り組み



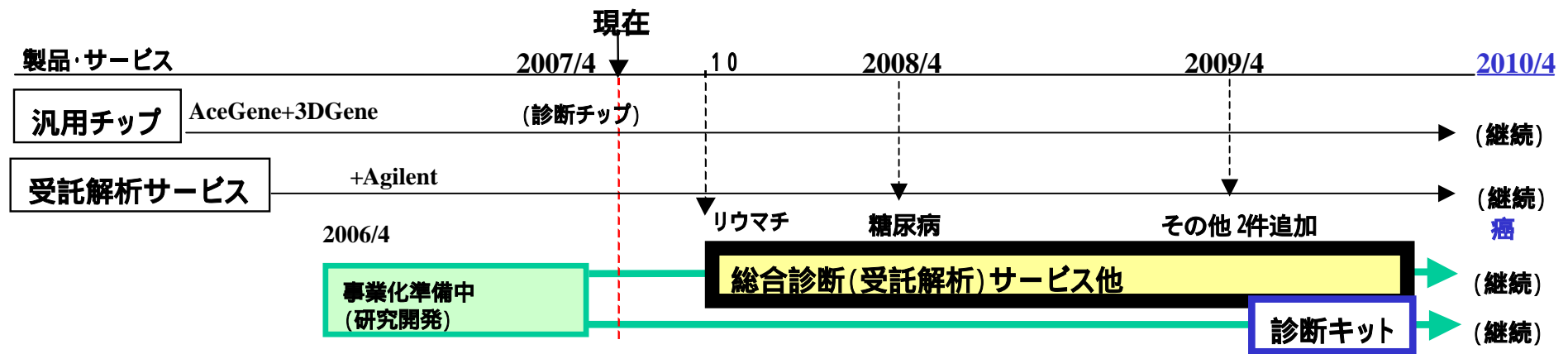
金沢大学
(共同研究)

埼玉医科大(国プロ)
(+ 大阪大学)

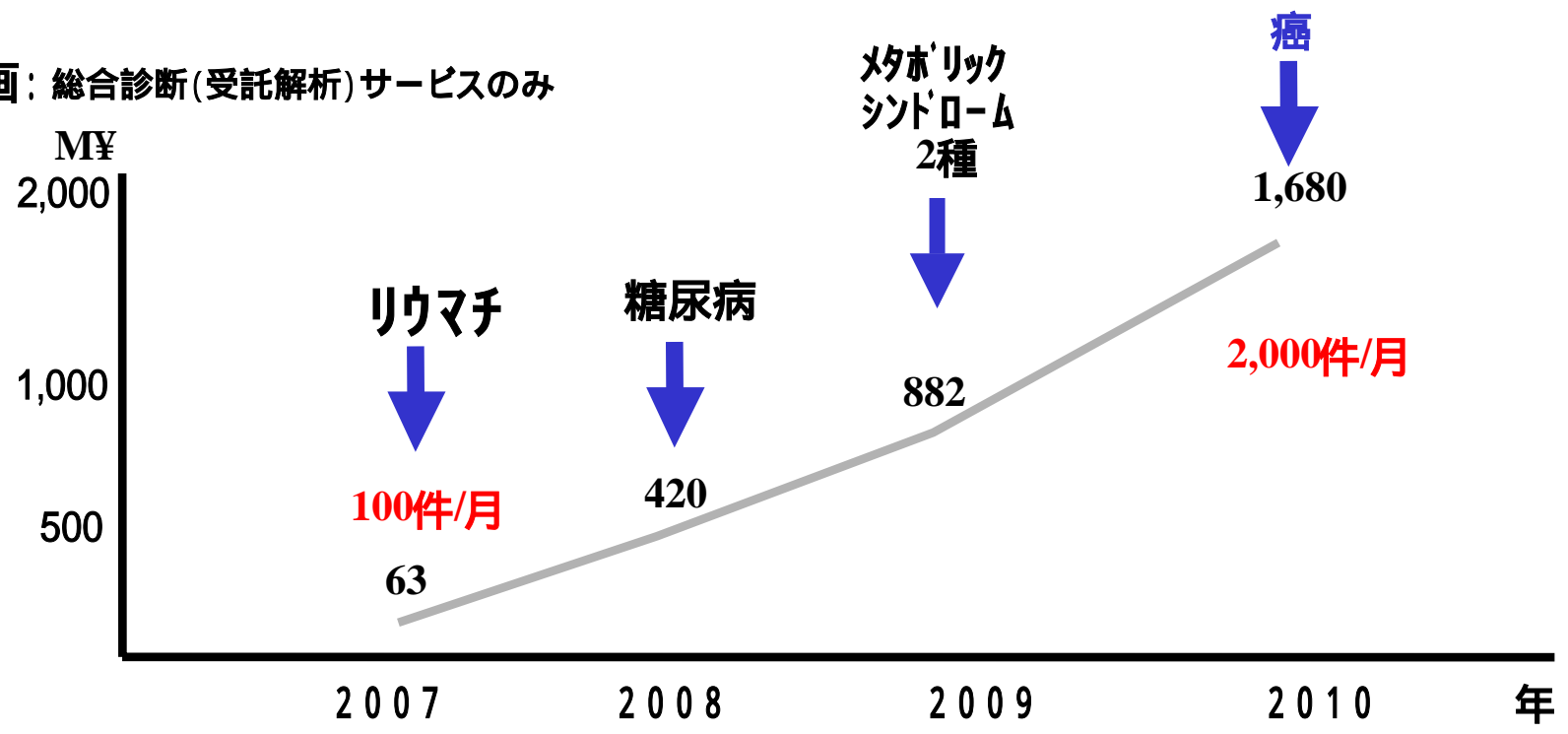
診断チップの継続的マーカー探しは、大学等研究機関と共同開発で品揃え推進中！

4. 健康クリニック事業計画

1. 開発計画



2. 販売計画：総合診断(受託解析)サービスのみ



5 . RNAチェック・レポート事例

研究用

RNA Check

遺伝子発現パターンによる 診断サービス

- 埼玉医科大による、大規模臨床試験に基づいたデータをご提供します。
- 血液が検査対象となります。
- x x種の遺伝子を解析し、リウマチ治療薬インフリキシマブの有効性を数値化します。
- 数値情報をもとに、リウマチ専門医によるコメントがご利用できますので、治療方針にお役立てください。

DNAチップ研究所について

DNA研究所は、xxxx年に設立された生命科学を推進することを目的とした、株式会社です。特に医療関係機関との連携は強く、癌、成人病をはじめ多くの研究機関と共同研究を行って参りました。

RNA Checkとは

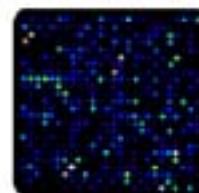
RNA Checkとは、癌人の遺伝子の発現パターンをもとに、患者の病状を遺伝子の側面から、見つけることで、担当の医師がそれぞれの患者にあった治療方針をたてることを支援するサービスです。現在は、リウマチを対象とし、生物学的製薬インフリキシマブの有効性を評価するサービスをおこなっております。

対象患者

インフリキシマブ導入を検討されているリウマチ患者
 罹病期間 xxxヶ月以上
 年齢 xxx以上
 その他 xxx

有効性判定方法

DNAチップによる遺伝子発現プロファイルから、xxxx種の対象遺伝子を利用し、xxxx店による判定を行います。



→ 有効性判定

有効性判定

インフリキシマブ投与患者 xxx例以上の検討から、RNA Check の xxx 種の遺伝子発現プロファイルと、それに基づくアルゴリズムが得られました。

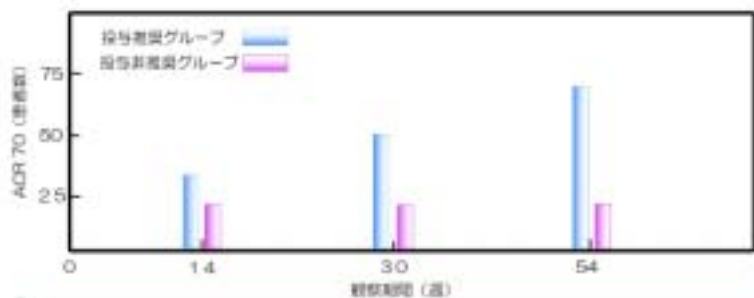
有効性判定(対象: xxx 症例)

投与推奨グループ	投与非推奨グループ
投与後14週 ACR50-70の割合 80%	投与後14週 ACR50-70の割合 20%

5 . RNAチェック・レポート事例

インフリキシマブ投与とその後

各グループごとの、インフリキシマブ投与患者 xxxxx 例の ACR70 症例数の推移は下記のとおりです。



リウマチ専門医によるコメント

RNA Check では初期診断情報と、患者の xxxxx による情報に頂くことにより、リウマチ専門医が、インフリキシマブ適応の妥当性、ならびに、今後の治療方針を支援するためのコメントを致します。今後の治療方針の検討にご利用ください。

文献情報

1. Aggrath 法による、抗TNF- α 薬 インフリキシマブの効果判定予測 DNAチップ研究所 B I T S
2. Aggrath 法による、抗TNF- α 薬 インフリキシマブの効果判定予測 DNAチップ研究所 B I T S
3. Aggrath 法による、抗TNF- α 薬 インフリキシマブの効果判定予測 DNAチップ研究所 B I T S

ご依頼について

- 試料は、xxxxx した血液を検査指定の検査センターにご送付ください。
- DNAチップ研究所の受付条件、血液サンプル送付方法、専任相談員、問診表については、印刷「ご依頼について」をご覧ください。

ご報告について

検査結果は、下記の様式でご送付いたします。

RNA Check - インフリキシマブ有効性判定

DNA Chip Research Inc.
株式会社 DNAチップ研究所
電話： / Web サイト / 住所
レポートを特定するためのバーコード

患者レポート

患者ID：00123456
性別：男性
生年月日：1950年1月1日
電話番号：
レポート作成日：2007年10月1日
クリニック名称：

検査方法

xxxx の遺伝子発現情報をDNA チップを利用し、患者が抗TNF- α 薬インフリキシマブの投与が有効な状態かどうかを、判定します。判定は、投与推奨グループか、投与非推奨グループかで判定いたします。臨床情報に基づき、リウマチ専門医がコメントいたします。

判定結果

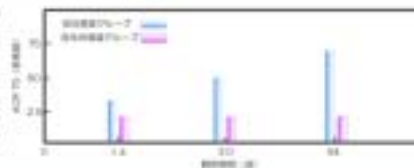
インフリキシマブ投与推奨

ここに、患者の臨床情報をもとに、医師によるコメントを記述していただけます。臨床情報は、カルテ情報、レントゲン情報他、多くの情報が実際には必要と認めれます。遠隔地からコメントを行うためには、他の情報が必要であるの十分判明する必要があります。

医師：DNA 太郎

インフリキシマブ投与後の状況

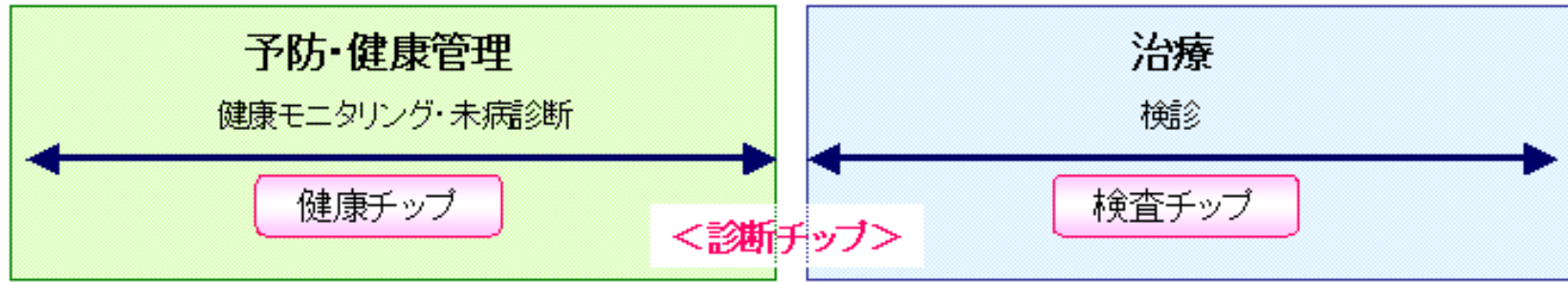
投与非推奨グループ、および投与推奨グループのインフリキシマブの投与状況を記載します。現在は、インフリキシマブしか判定方法がありませんが、結果判定も検査できるのであれば、インフリキシマブより、こちらを試した方が良い、別の診断ができるのではないのでしょうか？



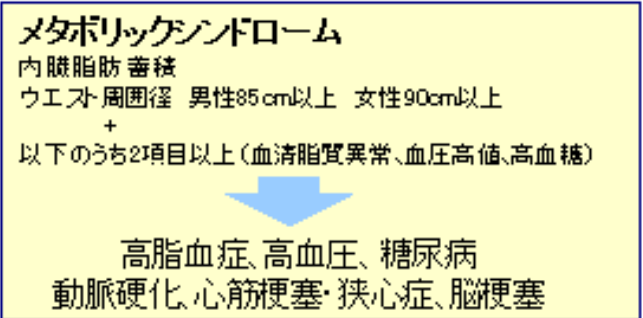
6. (株)DNAチップ研究所の事業戦略(まとめ1)

1. 「メタボリックシンドローム」支援サービス事業を焦点に技術開発シフト

診断チップを開発し、先ず「診断受託解析サービス」を事業化し、将来「診断キット」事業化に展開！

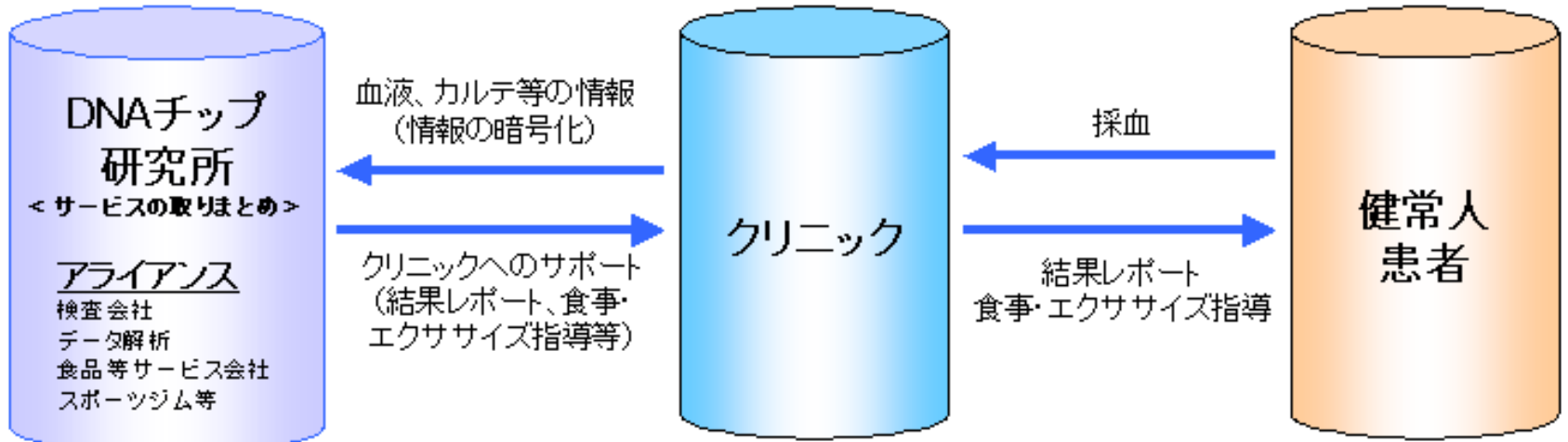


過食・肥満・運動不足
遺伝的体質



薬剤選択
食事療法選択
エクササイズ・コンサルティング

健康クリニック事業モデル



6. (株)DNAチップ研究所の事業戦略(まとめ2)

2. 健康クリニック事業(ヘルシーケア事業含む)の展開モデル

健康診断、病気診断時、既存検査データに「遺伝子診断(NA診断)情報を付加」し
生活習慣の改善指導、発症リスク診断、薬剤選択など、質の高い個人化医療を支援!

